

## 令和元年度 第2回 成田市精神保健福祉推進協議会 会議録

- 1 開催日時 令和元年 11 月 11 日（月） 午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分
- 2 開催場所 成田市役所議会棟 執行部控室
- 3 出席者  
（委員） 佐藤委員、山崎委員、嶋崎委員、橋本委員、青木委員、中村委員、  
佐久間（富男）委員、笠松委員、井上委員、太田委員  
（欠席） 鈴木委員、松島委員  
（幹事） 藤巻幹事、潁川幹事、大島幹事、佐久間（敏子）幹事、柳澤幹事  
（事務局） 木下部長、平山課長、安保係長、神崎主査、内田主任主事

### 4 議事（要旨）

○報告第1号 令和元年度上半期事業経過報告について

（各会長から幹事会報告、社会資源検討部会報告）

橋本委員：（居住体験について）あじさい工房作成のチラシに、ルビがあるところとないところがあるので、統一したほうが良い。

佐藤委員：今回のメンタルヘルスフェアは高齢者にスポットをあてた講義でいつもとは参加者が違っていた。講師は柏市の元福祉部長をされており、市の企画としては画期的なことをしていると思った。東大の研究機構とタイアップしているからか。

事務局：市と東大と UR、柏の豊四季の開発とあわせて合同しているようだ。

佐藤委員：過疎地だけでなく都市部でも高齢化しているところが多い。参考にしようという動きは広がっているのか。

事務局：同じことはなかなか難しいが、成田市でもニュータウンの再生の中では参考になる。

○報告第2号 成田市精神保健福祉の現状について

【補足：5. 成田地域生活支援センター…市民向け講演会は1回実施。街かど心の集いで「私たちのリカバリーストーリー」を実施。ぴあの戸辺氏、坂田氏、ぴあスタッフ清水氏が講演。26名、当事者参加。

山崎委員：4. 日中一時支援のあじさい工房とかたつむりは市外から受け入れているが、どのように市外からの人を受け入れているのか。

大島幹事：成田市の単価が決まっている。市外の単価は変わってくる。成田市の単価で契約してもらえれば事業所であれば利用可能。

事務局：市町村によっては違うが、成田市の単価を使ってあじさい工房と契約してもらえれば利用可能。

佐藤委員：5. 成田地域生活支援センターに計画相談支援件数があるが、相談支援はここだけではないので、他の事業所の数字もあわせて出した方が良いのではないかと。

事務局：相談支援事業所では計画の件数は出せると思うが、相談件数を集計することは難しいと思われる。

佐藤委員：細部は構わないが、計画相談の件数でも出した方がよい。

居住体験事業が0である。社会資源検討部会で再度検討すべきである。

佐久間委員：2部屋あるのでうまく活用出来ないかを考えたい。

佐藤委員：実際出来るか分からないが、提案をしていくべき。利用しやすいようにした方がよい。

佐久間委員：退院してすぐに一人でいることは難しい。隣の部屋に支援者がいる体制があると違うと思う。市の職員がその時だけ同宿してもらって、特別な配慮してもらえれば違う。各事業所の計画の人が同宿するのは難しい。可能であれば市の人が配慮してもらえたら最短かと思う。

事務局：当初病院からの人を想定していたがハードルが高く実際は難しく利用がない。現在自立支援協議会でも、親亡き後に備える一人暮らし体験の場として活用できるかと議論している。今後の状況は長期的に改善していくものと思われる。

佐久間委員：居住体験で家族と一緒に宿泊しては意味がないが誰もいないことはネックである。

#### ○議案第1号 令和2年度事業計画（案）について

佐藤委員：来年度の部会のテーマは幹事会で決めていたか。

事務局：9月の幹事会でテーマ案として出されていた。

佐藤委員：最近では居住体験ばかりなので、就労支援のことなど別のことも検討していただくようお願いしたい。

【議案第1号について 全員一致での承認となる】

#### ○その他

事務局：【別紙：事業メニューごとの現状確認シートを基に確認】

10. 構築状況評価もあるので、精神保健福祉推進協議会で地域包括システムの効果を確認、意見をうかがっていきたい。

佐藤委員：地域移行支援はどうか。対象となる人がいないのか。それとも相談支援事業側で行うことが大変なのか。

嶋崎委員：病院側から地域移行としてお願いすることはあまりない。

橋本委員：地域移行どうかと提案をしても、病院側で対象となる人がいないと言われる。計画相談の事業所側が、計画相談で手一杯で地域移行まで至らない。使うまでに区分調査等手間がかかるので、病院側も時間がかかるなら良いと言われることが多い。

嶋崎委員：病院側では医師の判断で退院となる為、事前に分かっていることは少なく、直前に言われることが多い。そこから計画相談に相談している時間がない。どうしても件数を増やすことは難しい。

佐藤委員：退院することが難しい患者さんは利用した方が良いと思う。

太田委員：すぐに段階として地域移行で進めていく余裕の時間はない。困難な人の場合は時間かけて考えて利用した方が良いが、実際は退院することが早く、地域移行を使うまでにならない。

佐藤委員：利用しやすいアイデアはないか。

事務局：病院の方で看護師にこういうものがあると知ってもらう。医療側でこういう制度を知らない人も多いので、対象となる患者をピックアップしてもらい進めていくことはどうか。計画に繋げていければと思う。

佐藤委員：今後も地域包括システムで検討する意見を出していただき、地域で精神障がい者が生活しやすいように進めていくために協力を願いたい。

5 傍 聴 者 1名

6 次回開催予定 令和2年7月